

謹賀新年

日本工業大学

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY

通信

第156号

編集・発行
日本工業大学
広報課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
☎(0480) 34-4111 (代)

http://www.nit.ac.jp

平成21年（2009年）1月1日発行

年頭の辞

まちを歩き、人と触れ、 技術を活かす



学長 柳澤 章

新年あけましておめでとございます。
2009年が、よき年となりますことを
願います。

さて、昨秋より世界経済は急速に厳
しい状況を迎えております。日本はかつ
てのバブル経済の痛い教訓から、今回
は他の国々ほどの急落はないだろうとの
見方もあります。しかし、グローバルな
経済の中で厳しい状況をおかれています。

実体経済を離れて巨大に膨れ上がった
金融活動が地球を覆っており、いったん
ほころびが生じると瞬く間に連鎖反応を
起こす構造があります。

高度に発達した金融工学は、NASA
にいたロケット・サイエンティストたち
がウォール街に移って作り上げたものと
いわれます。ロケットが地球に帰還する
際、燃え尽きることなく宇宙の果てに飛
ばされることのないように大気圏突入の
角度は精緻に計算されなければならない
といったように、宇宙工学で築かれた高
度な技術が金融に応用されたということ

魅力的な教育・研究の取組を紹介 ー第21回教育改革シンポジウムー

「教育学習方法等改善支援
および地域共同研究支援の
成果発表ならびに講評」を
テーマとする、第21回教育
改革シンポジウム
が、教育改革委員
会と研究推進委員
会の共催で、11月
13日に開かれた。
教育・研究分野
の新たな取組のう
ち日本私立学校振
興・共済事業団の
経常経費補助金特
別補助に採択され
た取組の一部につ
いて、その成果を公開し評
価することが目的である。
「教育学習方法等改善支援」
については、3件の発表と



成果発表を熱心に聞く参加者

ン組込みシステムの教育
は、ライントレスロボッ
トを段階を踏んで組み立て
るとともにその理論を学ぶ
もので、その達成感が学生
の資質向上に役立つと評価
された。建築学科・成田剛
准教授「現場体験を通して
学ぶ国際協力建築プロジェ
クト」は、国際プロジェクト
に携わる人材の育成を目
指している。JICAなど
で活躍した方の特別講義と
カンボジアやベトナムの文
化財修復現場での体験を組
み合わせており、現場の躍
動感を肌で感じることが、
学生のモチベーション向上
につながると評価された。
建築学科・渡辺勝彦教授・
波多野純教授「先人の努力
を知り国際感覚を養う建築
史実習」は、台湾の中国科
技大学と合同の建築史実習

で、台湾・中国・沖縄・奈
良などで実施されてきた。
企画、パンフレットの作成
に始まり、スケッチ、文化
財修復現場の見学、研究発
表会、設計講評会など豊富
な内容である。この実習は
単位を与えていないため、
参加者は積極的な意欲をも
つ学生に限られる。優れた
体験として、広範な学生が
参加できる体制を組むべき
との指摘があった。

「地域共同研究支援」につ
いては、2件の発表と質疑、
研究推進委員会による講評
がなされた。
機械工学科・古閑伸裕教
授「サーボプレスを利用し
た塑性加工技術の開発」は、

本事業は、金型専門企業
や金型部門をもつプレス加
工やプラスチック成形を行
う企業など金型関連企業に
おけるOJTによる人材育
成を支援し、それら企業が
「高付加価値金型」等を手が
けられるような金型人材が
合理的に育成できる教育プ
ログラムの開発を目的とし
ている。具体的には、金型
関連企業における新入社員
・中堅社員・幹部候補社員
・理系大卒者などそうでな
い者、など多様な人材を高度
専門技術者および経営マ
ネジメント管理者に育成で
きる「段階的な人材育成プ
ログラムの開発」を行う事業
である。この事業は、平成
20年から22年の3年間で
行われる。

この3年間で、本
学では、金型関連企業との
連携によって、理論と実践
基礎と応用、汎用性と専門
性を融合させた金型人材を
している。
（株）アマダプレステック
（現・株）アマダとの共同
研究である。NCサーボプレ
スを有効利用することで、
加工限界の向上、加工の高
効率化、騒音の低減などの
成果が得られた。システム
工学科・伴雅人准教授「短
波長レーザーによるマイクロ
化学チップ製造技術の研究」
は、文科省所管（財）近畿
高エネルギー加工技術研
究所との共同研究である。環
境分析や健康状態モニタリ
ングなどさまざまな分野で
利用可能なマイクロ化学チ
ップを短波長レーザーで加
工する技術の開発成果が示さ
れた。

本シンポジウムは、普
段あまり知られていない他
学・科教員の先進的な教育・
研究の成果を聞くことができ
、新鮮な感動があった。と
くに体験学習の教育効果が
具体的に示されたことは、「実
工学教育」の有効性を確認
するうえで重要なシンポジ
ウムであった。

日本工業大学 平成21年度入試日程			
日本工業大学 工学部 新設2学科・1学科 学科名称変更			
●機械工学科 ●ものづくり環境学科(新学科) ●創造システム工学科(学科名称変更・旧システム工学科)			
●電気電子工学科 ●情報工学科 ●建築学科 ●生活環境デザイン学科(新学科)			
一般入試	入試種別	日 程	
	出願期間	一般入試A	一般入試B
	試験日	1/5(月)～1/24(土) 2/1(日) 本学、郡山、水戸、 高崎、千葉 2/2(月) 本学、東京、新潟、 長野、静岡 2/3(火) 本学	2/4(水)～2/16(月) 2/21(土) 本学
	合格発表	2/10(火)	2/26(木)
センター利用入試	出願期間	センター利用入試A 1/5(月)～2/2(月)	センター利用入試B 2/4(水)～2/16(月)
	センター試験実施日	センター利用入試C 1/17(土)・18(日) ※本学での個別学力検査等は実施いたしません	2/18(水)～3/12(木)
	合格発表	2/10(火)	2/26(木) 3/21(土)
AO入試 ・AOエントリー入試 ・AOコーディネータ入試	第5期		
	エントリー入試のエントリー期間		
	1/15(木)～3/5(木)		
	コーディネータ入試の申込期間		
	平成21年3月上旬まで、随時受付		
AO入試 ・AOエントリー入試 ・AOコーディネータ入試	書類受理後に連絡		
	書類審査等		
	3/2(月)～3/12(木)		
	書類審査等		
AO入試 ・AOエントリー入試 ・AOコーディネータ入試	3/21(土)		
	合格発表		

・そのほか社会人入試、帰国子女入試などがあります。
・各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

願書のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学 教務部入試室
☎0120-250-267
URL : http://www.nit.ac.jp/ E-mail : nyu-shi@nit.ac.jp

社会人大学院生 募集！(日本工業大学 社会人特別選抜)

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

■平成21年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月14日～2月20日	2月27日	書類選考・面接	3月5日	3月13日

願書のご請求およびお問い合わせ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 (直通)

働きながら学べる専門職大学院 第5期生 募集！

日本工業大学 専門職大学院 技術経営研究科 ●技術経営専攻
中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/新事業創造・起業コース

■平成21年度 専門職大学院 入試日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切日
第2回募集	1月13日(火)～1月27日(火)	2月1日(日)	2月4日(水)	2月13日(金)
第3回募集	2月10日(火)～2月24日(火)	3月1日(日)	3月4日(水)	3月13日(金)

願書のご請求およびお問い合わせ先：
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院
TEL:03-3511-7591 FAX:03-3511-7594 E-mail:mot@kanda.nit.ac.jp

授は、長年のレター信号処理に関する優れた研究が認められ、平成20年9月に電子情報通信学会からフェローの称号を授与された。

神力元教授は、慶応義塾大学工学部電気工学専攻を修了後、平成13年3月まで防衛庁の技術研究本部に勤務し、電波システムの研究



電子情報通信学会から 神力正宣元教授にフェローの称号

開発等に従事した。本学へは平成13年4月に情報工学科教授として着任、平成20年3月まで勤務。現在は、非常勤講師として無線情報通信工学や情報理論などの授業を担当している。

フェローの称号は、学問・技術または関連する事業に顕著な貢献が認められ、同学会への貢献が大きい正会員に対して与えられるもので、本年度（9回目）は、58名に授与された。

神力元教授は、30年前に世界で初めて力オス発振器を提案したが、神力回路と賞に結びついた。



黒澤明元教授に瑞宝小綬賞

黒澤明元教授（現・特別研究員）が、平成20年11月、瑞宝小綬賞の栄に浴した。長年にわたる音響工学（心理音響学）分野での研究・指導、啓蒙活動ならびに初等中等教育における教科書づくり等を通じた理科教育への功績が評価されたもので



70歳で博士号取得、田中克敏氏、euspénからも功労賞

田中克敏氏は、平成20年6月、70歳で博士号を取得した。同氏は、東芝機械の顧問として勤務しつつ、システム工学・鈴木清教授の指導を得て、「超精密加工機械の高精度化の研究」というテーマで、キャリアを積み重ねた論文をまとめあ

また、同氏は、長年にわたる超精密加工機械の開発と、世界の超精密加工産業を牽引してきた功績により、euspén（欧州最大の精密加工学会）から09年・功労賞授与者に選ばれ、6月にスペインのサンセバスチャンで開催される同学会で基調講演を行う。同氏の取り組みは、シニア世代にとって大きな励みである。

来年度（5期生）の入試始まる

去る11月30日（日）に本専門職大学院の来年度学生（5期生）の第1回入試が実施された。

社会人が働きながら1年間で技術経営の実務に役立つ専門知識と手法を修得し、学位を取得できるなど、本大学院が他に無い特徴を有することは、大学院案内等の各種印刷物やホームページでも紹介しているが、今回の受験者の多くは11月8日（土）の午後開催した本年度第1回目のオープンキャンパスに参加した人たちであった。

今回のオープンキャンパスは、説明会、修了生による特定課題研究（修士論文

に代わる必修科目）の実例紹介、授業見学、修了生と在学生によるパネル討論「本大学院でMOTを学んで」、キャンパスツアーと、盛り沢山の内容であったが、入学を検討中の来場者との質疑応答も活発に行われ、本大学院の実態に関する理解が一段と進んだものと思われる。

来年度学生の募集と入試は、別掲一面のように、あと2回予定されており、それに向けてオープンキャンパスもあと2回開催される。特別講演や模擬授業もあり、今回同様充実した内容になる予定である。本大学院の入学者は全員社会人であるため、勤務との両立が必



オープンキャンパスでのパネルディスカッションの様子

専門職大学院オープンキャンパス日程

第2回

2009 1/17 (土)

第3回

2009 2/14 (土)

説明会、授業見学、パネルディスカッション
キャンパスツアー 等を予定 ※各日とも 13:00 開始

◆参加ご希望の方は、事前にお申し込みください
◆お申し込み、お問い合わせは・・・

日本工業大学 専門職大学院
TEL. 03-3511-7591 FAX. 03-3511-7594
E-mail: mot@kanda.nit.ac.jp

さて、4期生の特定課題研究「技術経営プロジェクト研究」への取組みはますます熱が入っている。指導教授との連携も一段と強くなり、受講日以外の平日夜間あるいは土曜日にも頻繁にキャンパスを訪れて、各自の具体的な個別課題の研究進捗状況を指導教授に報告しアドバイスを受けている。

また、講義の合間や終了後の院生同士の交流の場でも、話題の中心はもっぱら特定課題研究となっており、活発な情報交換が行われている。3月中旬の発表会までに全員揃って研究成果をまとめ上げ、最終試験に合格して修士号を受けられるよう期待している。（教授 松野建二）

科」への名称変更です。

今回の改組は、建学の理念に基づき、大学設立以来41年の歩みを振り返り、本学の強みを見極め、それを活かすという視点で検討されました。

この新体制により、時代の価値をしっかりと捉え、

昭和53年から56年にかけては緑化推進運動「グリーン・キャンペーン」を実施し、平成12年には本館の屋上へ、大学としては世界最大規模の300kwの発電量を実現する太陽光発電システムを設置しました。また、平成

今後、環境問題と通じていることはできませんが、工学の視点から環境を見つめ、問題解決を図っていくことが大きな力になるはずです。今年はその第一歩として前進してまいります。

皆様方の一層のご鞭撻をお願い申し上げます。

●年頭所感● 更なる環境活動の推進



理事長 大川 陽康

13年6月には、キャンパス全域で国際環境規格ISO14001の認証を取得、平成16年には風力発電装置を設置するなど、キャンパスの省エネ化やグリーン化など、さまざまな取り組みを進めてまいりました。

特に国際環境規格ISO14001を認証取得して以来、教職員、学生、大学関係者すべてが一致協力して環境保全活動に取り組む、環境教育・研究面でも大きな成果を挙げております。

学生諸君が、忙しい勉強の合間を縫って環境について積極的に学び、自ら進んで環境マネジメント活動に取り組んでくれているのも大変喜ばしいことであります。また、学問の領域を越えた研究活動も盛んになっております。このような環境マインドの高まりによって、緑に囲まれた学内の教育・研究の環境は飛躍的に充実しております。

本学は、今年4月に「環境」をキーワードとした2学科を新設、1学科の学科名変更を行いました。即ち「ものづくり環境学科」、「生活環境デザイン学科」の新設であり、現在の「システム工学科」から「創造システム工学

え、社会に貢献する価値を創造する21世紀の技術者を育成し、社会に送り出して参ります。

21世紀は、「環境の世紀」と言われていますが、本学は、いち早く「環境」に着目し、様々な展開を行って参りました。

に充実しております。こうした取り組みが反映されたものが、今回の環境に関する2学科新設であります。

しかしながら、本学で学ぶ学生諸君、教育・研究、運営に従事する教職員、全ての大学関係者の皆さんにとって、より良い環境の中で勉学・研究・仕事ができる様には、更に力を注いでいきたいと考えております。

具体的な展開も幾つか検討中で、なるべく早く実現する様に努力し、環境にやさしい学園づくりに努めてまいります。

ISO-8年度環境目標達成状況 (2007年10月～2008年9月) ～ISO-9年度の活動に向けて～

ISO-8年度は、教職員・学内関連会社・学生が一体となった環境マネジメント活動により、環境目標17項目中14項目で目標を達成している（下表参照）。

今年度、ISO-9年度には、その成果を継続、発展させるとともに、さらに、環境における社会的責任を認識し、工業教育の理想を追求する本学の教育環境の中で、環境教育・研究の一層の進展を掲げ、具体的目標の達成に向かって活動を推進していく。

平成19年10月からスタートしたISO-8年度の活動の一端を紹介する。



彩の国資源循環工場見学会の様子

- 環境特別講演会の開催
- 「地球温暖化と環境経営」展への出席（平成20年6月3日～6月6日）
① 研究発表・体験による環境教育。キャンパスのエコ・ミュージアム化、
「QRコード」操作ボックスを使い本学の環境情報を紹介・設置・パネル操作による環境情報閲覧
② 超低燃費カムレスエンジン
③ 環境分野研究奨励助成金制度による研究成果報告
＊会場・東京ビックサイト、来場者数・18万人
- シンポジウムの開催
- 「第3回日本工業大学にあるべき環境教育を考えるシンポジウム」（平成19年12月21日）来場者数・101名
- 「2008・NEW環境
- 学生環境推進委員会の活動
- ① 彩の国資源循環工場（寄居町）見学（平成19年12月6日）
② EMS推進協議会（平成20年1月11日）参加者・23名
③ JACO榎本喬一朗講師による内部環境監査員養成研修開催（平成20年9月11日・12日）参加者・11名

ISO-8年度 環境目標の達成状況／2007年10月～2008年9月		（評価）○…達成、×…未達成	
環境目的	環境目標	主要実績	評価
持続的発展が可能な社会の実現を担う人材・高級科学技術者の育成に資する環境教育プログラムの策定、構築	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	①環境教育プログラムをテーマとしたシンポジウムの開催 ②大学案内「環境が学べる」ページの作成	○
持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級科学技術者の育成	環境学修プログラムの実践による持続的発展が可能な社会の実現を担う人材の育成	環境関連科目38科目を通じ、延べ7830名に実施	○
体験的環境教育の推進	①エコ・ミュージアムの整備及びQRコード（環境情報発信）による体験的環境教育の普及・推進 ②学外における体験的環境教育の実施	①エコ・ミュージアムの整備 ②環境情報（QRコード）の拡大、発信 ③エコ・ツアーの実施	○
環境に関する研究の推進	①教職員、学生の協働による研究の推進 ②環境に関する研究の推進	①「環境分野研究奨励助成金」制度による研究推進 ②研究論文、共同研究等の刊行物での公表 ③卒業研究等における環境関連テーマの推進	○
環境コミュニケーションの推進（環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成）	環境関連情報の発信とコミュニケーションを通じた環境共生意識の啓発・普及を図る	①環境特別講演会の開催（学生・市民へ公開） ②ホームページ等による環境情報発信 ③「2008NEW環境展」への出席 ④本学環境関連施設見学会の実施	○
持続的発展が可能な社会の構築に向けた社会・地域との連携、協働の推進	自治体、諸機関との連携、協働、他大学との交流を図る	①宮代町との連携、協働 ②スターリングテクノロジーの開催 ③他大学との交流 ④私立大学環境保全協議会との連携	○
環境教育（学生環境推進委員会への支援とコミュニケーション）	学生環境推進委員会への支援及び学生とのコミュニケーションを円滑に深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す	学園祭への参加、講演会、彩の国資源循環工場の見学、学内のばり設置	○
電力使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の4.6%削減	○
ガス使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の3.8%削減	○
上水使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の4.7%削減	○
紙使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の1.9%増加	×
廃棄物の削減・適正管理	予想排出量の1%減量化、一般廃棄物の資源化率60%以上	予想排出量の8.4%減量化、資源化率91.1%	○
緑地整備・保全	長期計画に基づく整備・保全	緑地の維持管理、植栽等	○
グリーン調達の積極的な推進	グリーン調達率の向上（関連会社からの購入品調達率60%以上）	グリーン調達率38.2%（金額ベース） ※数量ベース算出は、取引先変更に伴い算出できない（2008年4月～）	×
安全・環境安全な化学物質の使用・保管管理および化学廃棄物の保管・排出管理への改良	安全性向上にむけた施策の策定、実施	保管管理量の調査実施	○
教育・研究施設等の効率的、効果的活用及び管理・運営	施設マネジメント体制の構築と実施	教育部門等の実地調査・改善推進	○
労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	労働安全衛生マネジメントシステムの構築	①労働安全衛生マネジメントシステムの構築 ②行動計画の作成、実践	×

アーチェリー部活躍

関東理工系大学 新人戦・定期戦とも優勝

本学アーチェリー部が活躍している。07年日本学生アーチェリー連盟関東ブロック(日本体育大学ほか51大学加盟)で一部リーグ昇格後も活動は顕著である。



08年大分国体で競技する本間君

システム工学科4年本間薫君が国体東京都代表として07、08年連続出場、建築学科1年田沢祐樹君が08年国体出場を果たした。大学スポーツ界の目標はインカレ、ブロック優勝などで、本競技も新人戦やブロック大会、全日本大会などで上位入賞を目標にしのぎを削る。

08年秋、本学アーチェリー部12名が関東理工系新人戦、定期戦に臨み、ともに優勝を果たした。この大会は連盟加盟関東地区理工系9大学の

しての勝利である。この好成績は部員の結束と部長のリーダーシップにも見て取れる。同部の活動は実に活発であり、08年、学外への遠征出場(全日本選手権、王座決定戦、東日本大会、東京都、茨城県国体代表選抜)は15回を超え、練習試合、合宿、学内活動、自主練習などによる総合力が、今回の成果に結びついた。

11/14(金) 川口信用金庫と 産学連携協定締結



川口信用金庫理事長と柳澤学長(右)

本学は、川口信用金庫と平成20年11月14日に産学連携協定を締結した。以前より本学・産学連携起業教育センターと川口信用金庫は、鋳物の町川口を中心として企業からの技術相談等で連携を行ってきたが、これを機会に本学が持つ知的財産や研究設備の活用、共同研究につなげ、また、中小企業が抱える人材

難の面でも支援していく考えである。本学・柳澤章学長と川口信用金庫・山口泰男理事長による産学連携協定の締結が行われ、午後2時からは産学連携セミナーが学友会館ホールで実施された。川口信用金庫の取引先70社および100名が参加、機械工作センター、先端材料研究センター等を見学した。

あけましておめでとうございます。新しい年が皆さんにとって実り多き一年となるよう、心からお祈り申し上げます。さて、皆さんは映画のエンドロールに、(O)Xフィルムコミッションといったものを見たことはあるでしょうか？

作品を通じた地域の知名度アップや観光客の増加も注目されており、撮影の誘致に繋がるフィルムコミッションへの期待も高まっています。1月17日から公開となる、妻夫木聡さん主演の映画「感染列島 パンデミック」もその内の一つです。

身近な場所を撮影の舞台とするフィルムコミッションの活動、映画やテレビドラマを見ていると、良く知った宮代町の風景に出会うことがあるかもしれませんね。

(宮代町広報S)



清掃を終えて (2班のうちの1班)

学生環境推進委員会主催 ボランティア清掃実施

学生環境推進委員会では今年度新たな取り組みとして、通学路ボランティア清掃を平成20年10月18日(土)に実施した。これは、日頃お世話になっている宮代町内の通学路の美化を目的にしている。

参加者は、当日10時30分に東武動物公園駅西口に集合し、清掃を開始した。当日は、学生40名、教職員10名の計50名が参加した。参加者は2班に分かれ、駅西口から大学正門までの道のりを、主にタバコの吸殻・ペットボトル・空き缶を拾って歩いた。

参加者は、宮代町にも協力を仰ぎ、可能であれば共同開催も予定している。

今後、宮代町にも協力を仰ぎ、可能であれば共同開催も予定している。

会計検査院の検査(報告) 11月19日(水)から21日に係る検査を実施できることとされており、これに基づき本学が交付を受けている補助金等に係る検査が行われることとなったものである。今回の検査は、本学にとつて平成6年以来14年ぶりの検査であり、関係者一同、厳粛な雰囲気の中で、3日間の検査に対応した。

大きくなっています。宮代町でも映画やテレビドラマ、CMの撮影地として、町内の風景・施設を活用してもらおうと

「みやしろフィルムコミッション」を立ち上げ、力を入れています。昨年中も多数の撮影が町内で行われました。1月17日から公開となる、妻夫木聡さん主演の映画「感染列島 パンデミック」もその内の一つです。

身近な場所を撮影の舞台とするフィルムコミッションの活動、映画やテレビドラマを見ていると、良く知った宮代町の風景に出会うことがあるかもしれませんね。

(宮代町広報S)

宮代町と包括協定締結

活力あるまちづくりで協働



調印後記念撮影

11月25日、本学と本学の所在する宮代町との間で、活力ある個性豊かなまちづくりの発展に寄与することを目的に「宮代町と日本工業大学との連携に関する協定(包括協定)」が締結された。当日は、宮代町から榎原町長、桐川教育長、矢嶋副町長等が本学に来学し、

本学からは柳澤学長、原副学長、梅崎学生支援部長、藤田総務部長等が出席した。調印式では、学長、町長の挨拶に続き、握手とともに協定書が交換された。

これまで、本学と宮代町との間では、町の各種委員会の委員として本学教職員が委嘱されているほか、学

友会館等、本学施設の町民への開放、さらには、08年4月の「災害時における相互協力に関する協定書」締結など、数々の協力が図られてきた。しかしながらこれらの連携は担当者レベルでの協力関係であった面も否めない。このたびの包括協定締結により、組織相互の協力関係が構築される。今後は両組織の幹部による「連絡推進会議」を新設し、具体的な検討を図っていく。

12/6(土) NPO・大学シンポジウムに参加 昨年12月6日(土)、NPO・大学シンポジウムが埼玉県労働会館で開催された。本学からは、情報工学科大木幹雄教授と学生が参加、

「きらり姫宮」等の支援事例の実演デモ展示とITを活用した支援事例2件の紹介を行った。事例紹介のう

いて、大木教授と同学科3年・藤井英樹君が発表した。本シンポジウムは、埼玉NPO活動推進課が窓口となり、県内の大学、NPOを組織して開催されたもので、第1セッションでは、設計国際会議にて論文発表

◆丹治明講師(工業技術博物館)／出張先中国(10/30)／目的第7回日中機械技術史・機械設計国際会議にて論文発表 ◆正道寺勉准教授(システム工学科)／出張先中国(10/30)／目的第2セッションでは、NPOと大学によるまちづくりをテーマに報告があり、活

発な討議が行われた。

◆海外出張(11月、12月)

◆海外出張(11月、12月)

国際交流

タイのキングモンクット工科大学と サウジアラビア王国から来学

タイの学生が共同研究にシステム工学科・渡部修一教授との共同研究を目的に、機関間協定校であるタイ国王モンクット工科大学(KMUTT)工学科ティンクで、生体材料として耐血栓性等に優れたDLC膜を、インプラント材な

生4名が昨年10月22日から11月19日まで来学した。テーマは、ナノDLC(ダイヤモンド・ライク・カーボン)のバイオ材料へのDLC膜の形成とその基礎的特性評価のためである。一行は本学で作製した試料を持ち帰り、今後は生体化学

どの形で生体へ応用展開しようというもの。今回の来訪は、生体応用に必要となるチタン合金材料上へのDLC膜の形成とその基礎的特性評価のためである。一行は本学で作製した試料を持ち帰り、今後は生体化学

評価を進展させる。 サウジの留学生が見学に 昨年11月15日、サウジアラビア王国留学生9名が、同国大使館員と来訪、来年度発足する7学科のものづくり教育を中心に見学した。学生は同国アブドラ国王奨学金制度で平成19年4月から東京などで日本語教育を受けており、本年4月の大学進学にあたり、その候補として本学を訪れたもの。



KMUTTの来学者とのフェアウェルパーティ



ロボット工房を見学するサウジからの留学生

同王国は、石油依存経済から工業化へのシフトを狙いとして、また、外国人労働力に頼っている現状を打破し、自国民の雇用を促すのだと熱く語っていた。

10月25日(土)、セミナーハウス下田寮で行われた後援会理事会の席において、長野県支部より大学に対し、学園創立100周年記念事業に対する寄付金の目録が贈呈された。寄付金は長野文庫(図書)としてLCCセンター(百年記念館)に寄贈される予定。

10/25(土) 長野県支部から目録贈呈 100周年記念事業に対する寄付金

10月25日(土)、セミナーハウス下田寮で行われた後援会理事会の席において、長野県支部より大学に対し、学園創立100周年記念事業に対する寄付金の目録が贈呈された。寄付金は長野文庫(図書)としてLCCセンター(百年記念館)に寄贈される予定。

柳澤学長に目録を手渡す降旗支部長

柳澤学長に目録を手渡す降旗支部長

柳澤学長に目録を手渡す降旗支部長

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。